

<俳句會>

再見吧 悲愴主宰 無主會

徒留遺言 無徒意會

更^レ再^ル來^カ 悲^ク愴^シ主^ノ宰^カ 無^ク主^ノ會^セ
徒^ク留^メ遺^シ言^ヲ 無^ク徒^ク意^ハ會^セ

<俳句會>

(華) 再見吧 悲愴主宰 無主會

徒留遺言 無徒意會

(台) 更^レ再^ル來^カ 悲^ク愴^シ主^ノ宰^カ 無^ク主^ノ會^セ

徒^ク留^メ遺^シ言^ヲ 無^ク徒^ク意^ハ會^セ

(日) おさらばよ悲愴の主宰逝きし会

残す遺言知る弟子の無く

(英) Say goodbye to

the haiku society

the pathetic master has passed away

leaving behind only the last words

none of the disciples can comprehend

俳句自選百句

はじめに

・手許にある資料から百句を選んでみました。これらの作からもわかるように私は必ずしも五七五の定型に固執していませんし、季語の虜になってもおりません。少し考えてみましょう。

かりに誰かがあなたに向かい「オートバイとは何ぞや」と尋ねた場合、あなたは「どうお答えになりますか。多分「モーターを備えた二輪車である」とお答えになるかまたはなりそうです。だがこのような返答の仕方はオートバイの「現象」についての言で、「定義」ではありません。オートバイの定義は「軽便敏捷なる交通用具」であるべきです。これと同じく俳句とは何か。俳句の定義は「詩」であります。そして詩にいろいろな型や趣向のあることから俳句の特性として「短い」ことが強調され、俳句とは「短詩である」となりましょ